

(5) 生徒が持っている価値観に関して

ここでは、6つの心理社会的価値を設定した。以下の表のように、価値尺度別にそれぞれ4つの質問肢(全部で24の質問肢)からなっている。その回答に対し、右のような集計を行い、求められた価値尺度別の全体の平均を基準にして、その平均との差をグラフの縦軸として、表示した。

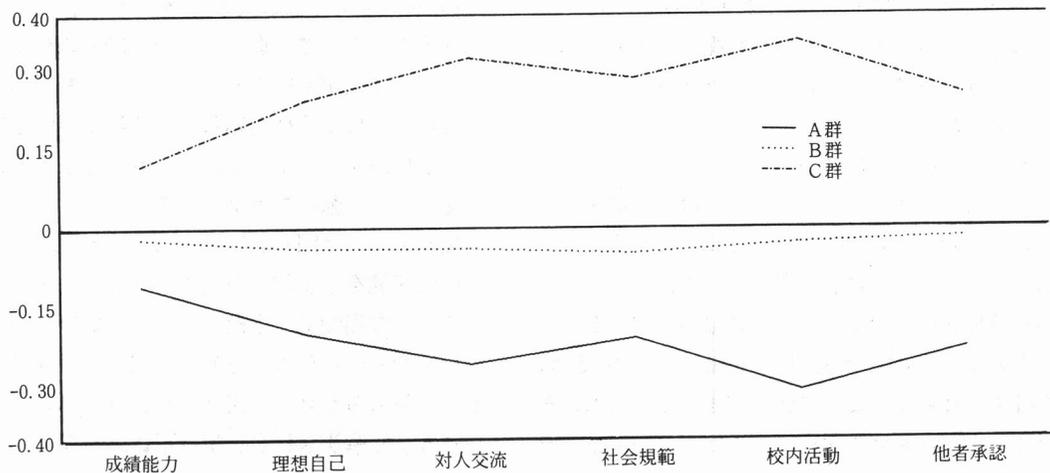
[集計方法]

質問肢の回答についてそれぞれ、「とても」は2点、「少し」は1点、「大切でない」は0点として点数化した。それぞれの価値尺度別に8点満点で、その得点を集計した。その全体の平均と標準偏差については次の表のとおりである。

尺度	<成績・能力>	<理想的自己像>	<対人交流>	<社会的規範>	<校内活動>	<他者からの承認>
質問項目	①将来社会で成功すること ②よい高校や大学に入ること ③よい成績を取ること ④学校の勉強に遅れないこと	①人から信頼される人間になること ②思いやりや愛情のある人間になること ③自分の考えで自信を持って行動できるようになること ④困難に打ち勝つ強い気持ちを持つこと	①学校でいろいろな人々と知り合うこと ②家族と相談や話し合いができること ③いろいろなことを分かち合える友だちを持つこと ④思いやりを持って他人とつき合うこと	①社会や学校の「きまり」を守ること ②他人に迷惑をかけること ③家族に心配をかけること ④自分勝手な行動をとらないこと	①部活動に参加すること ②文化祭、体育祭、その他の学校行事に取り組むこと ③学校内で責任ある役をすること ④授業に参加すること	①友達に自分をわかってもらうこと ②家族に認められること ③仲間はずれにされないこと ④先生に認められること
平均	5.68	6.98	6.52	6.53	5.78	5.61
標準偏差	1.78	1.36	1.44	1.43	1.58	1.41

6つの価値尺度の質問項目と平均・標準偏差

① A群・B群・C群の比較



ア 6つの価値尺度すべてにおいて、A群は全体の平均を下回っている。逆に、C群はすべての価値尺度で全体の平均を上回っている。このことから、学校生活に適応している状態にあるC群の生徒は、学校生活のさまざまな側面に価値を見いだしているといえる。

イ A群とC群との差が特に大きいものは、「校

内活動」と「対人交流」である。このことから学校での諸活動に意欲的に取り組むことや、人間関係を積極的に求めることに価値を見いだしている生徒ほど、学校生活に適応している状態にあることがわかる。

このうち、「校内活動」に価値を見いだしているということは、現に目的意識を持って取り組ん